

**2022年3月期
第2四半期 決算説明資料**



カーリットホールディングス株式会社

CODE : 4275

1. 2022年3月期第2四半期 決算概要

2. 2022年3月期 通期見通し

取締役兼専務執行役員 森下 貴

3. 今後の取り組み

代表取締役社長 金子 洋文

2022年3月期
第2四半期 決算概要

※第1四半期より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等”を適用したと仮定して算定した参考値

(単位：百万円)	2021年3月期 第2四半期 実績※	2022年3月期 第2四半期 実績	差異 増減率
	売上高	13,470	16,006
売上原価	10,241	11,983	+1,741 +17.0%
販売費及び一般管理費	3,022	2,984	△38 △1.3%
営業利益	205	1,039	+833 +405.7%
経常利益	313	1,137	+824 +263.3%
純利益	135	1,020	+884 +653.5%

製造の不具合による

支払補償費 △139 受取保険金 +96

南澤建設(株)の株式取得による

負ののれん +209 (暫定値)

※第1四半期より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等”を適用したと仮定して算定した参考値

	売上高			営業利益		
	2021年3月期 第2四半期 実績※	2022年3月期 第2四半期 実績	差異	2021年3月期 第2四半期 実績	2022年3月期 第2四半期 実績	差異
(単位：百万円)						
化学品	7,236	8,192	+956	234	549	+314
ボトリング	1,994	2,176	+181	△218	15	+233
産業用部材	3,493	4,522	+1,029	49	288	+238
エンジニアリング サービス	1,054	1,434	+379	57	194	+137
報告セグメント計	13,778	16,326	+2,547	123	1,048	+924
連結合計	13,470	16,006	+2,536	205	1,039	+833

【化学品事業部門】

産業用爆薬	↘	価格改定により増収となったものの、原材料価格の高騰により減益
自動車用緊急保安炎筒	↗	新車向けは自動車減産による減収の一方、車検向けの増加と安全意識向上によるガラス破壊具付への切替促進で増収増益
高速道路用信号焰管	↗	交通量の回復を受けた需要の増加により増収増益
煙火関連	→	花火大会の中止継続により低調で推移
宇宙産業	—	固体推進薬の開発を顧客と共同進行中。実スケールの真空燃焼試験で良好な結果
受託評価試験	↗	電池開発の活況により回復
塩素酸ナトリウム	↗	紙需要の回復
亜塩素酸ナトリウム	↘	殺菌用途における顧客の在庫調整により減収減益
過塩素酸アンモニウム	↘	ロケット打ち上げスケジュールの影響により減収減益
電子材料関連	↗	5G関連・パソコンの需要活況により増収増益
機能材料関連	↗	オフィス向け複合機向けの回復により増収増益
セラミック材料	↗	半導体向け需要増加により大幅な増収増益

【ボトリング事業部門】

ペットボトル飲料	↗	自販機・コンビニ向けの回復により増収増益
缶飲料	↗	生産の効率化により増収増益
委託品	↗	炭酸飲料の増加により増収増益

【産業用部材事業部門】

シリコンウェーハ	↗	半導体の需要拡大傾向の継続による増収増益
		各種センサー・マイクロフォン等に使用のMEMS（微小電気機械システム）向けの超高平坦度ウェーハ製造・出荷開始
耐熱炉内用金物	↗	主製品であるアンカーの回復により増収増益
ばね・座金製品	↗	自動車の減産影響はあったものの、建機向けの好調継続で増収増益

【エンジニアリングサービス事業部門】

建築・設備工事	↘	工事件数の大幅な減少により減収減益
塗料販売・塗装工事	↗	塗料販売の増加、新規塗装アイテムの獲得により大幅な増収増益
構造設計	↗	収益性の高い物件の増加により増収増益

2022年3月期 通期見通し

※第1四半期より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等”を適用したと仮定して算定した参考値

	2021年3月期 実績※	2022年3月期 当初予想	2022年3月期 修正予想 (2021年9月29日修正)	対2021年3月期 増減率
(単位：百万円)				
売上高	29,631	31,000	33,000	+11.4%
営業利益	1,574	1,800	2,200	+39.7%
経常利益	1,770	1,900	2,300	+29.9%
当期純利益	1,231	1,300	1,800	+46.2%
配当（1株当たり）	12円	12円	12円	—

※第1四半期より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等”を適用したと仮定して算定した参考値

	売上高			営業利益		
	2021年3月期 通期実績※	2022年3月期 当初予想	2022年3月期 修正予想	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期計画	2022年3月期 修正予想
(単位：百万円)						
化学品	15,576	16,000	17,000	744	800	1,050
ボトリング	4,239	4,150	4,200	77	300	200
産業用部材	7,627	8,000	8,800	230	400	550
エンジニアリング サービス	2,802	3,500	3,600	390	300	370
連結合計	29,631	31,000	33,000	1,574	1,800	2,200

通期見通し

<売上高・利益予想推移>

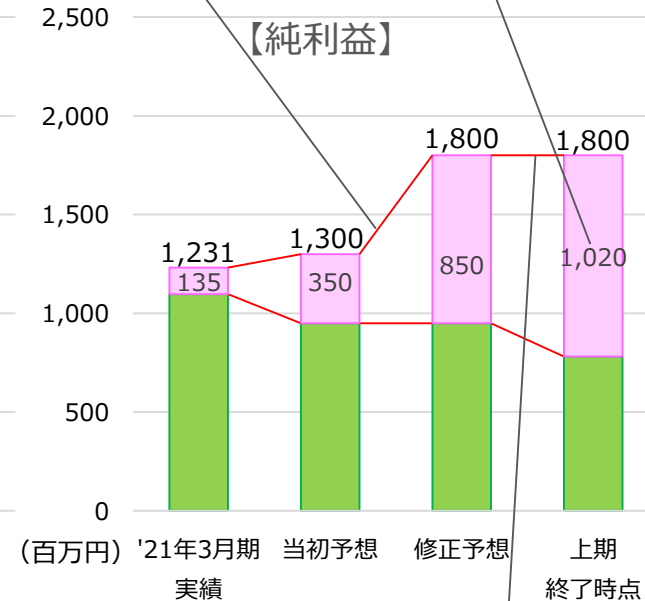
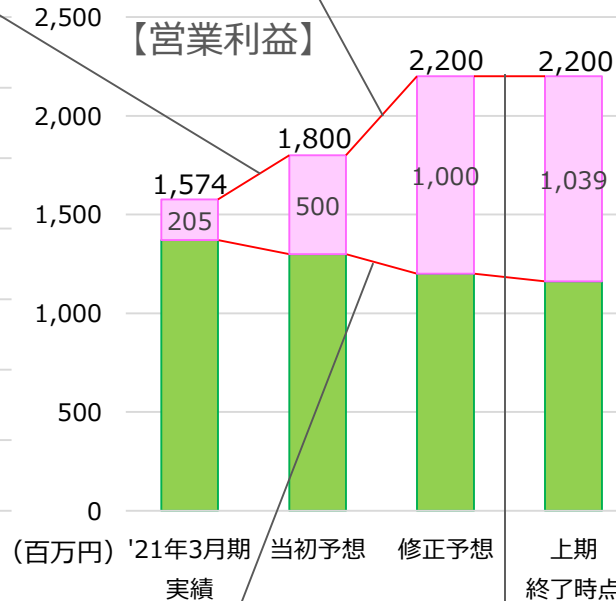
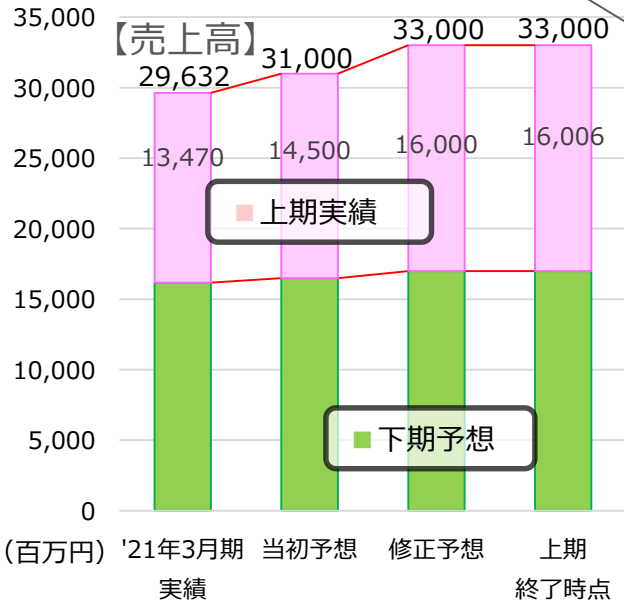
上期概要

コロナ禍の前年に対し
増収・増益の計画

上期は予想以上に需要が
回復し、予想を修正

営業利益の大幅な増
加等により9/29に業績
を修正

南澤建設の負ののれん
が予想を上回り、
更に増益



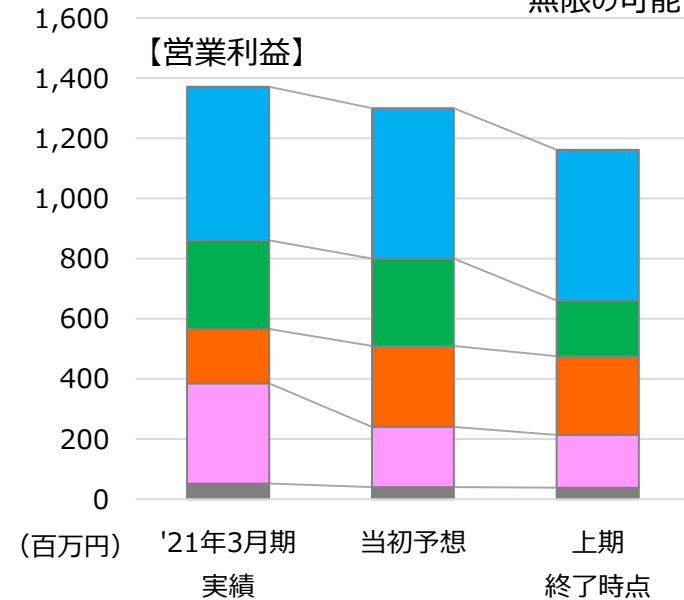
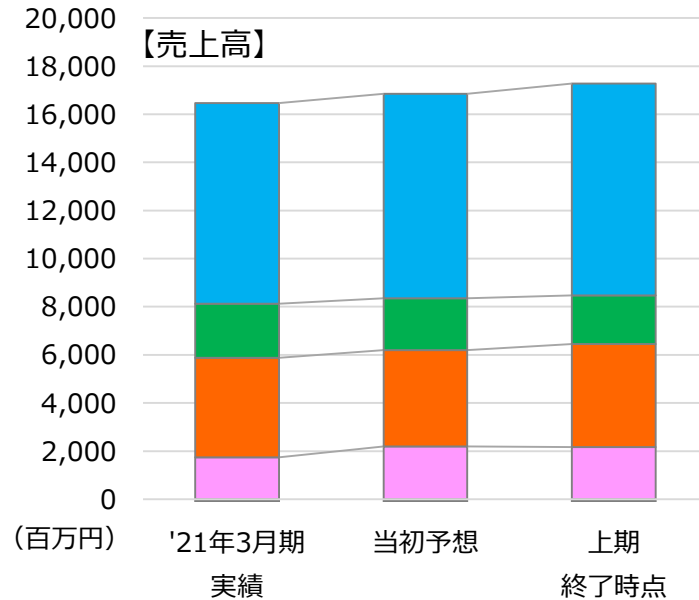
下期概要

特にボトリング事業において、コロナ禍からの回復の鈍化、原材料価格・エネルギーコストの高騰等の影響を見込んだもの

通期予想は据え置き

上期実績は修正予想を上回ったが通期予想は据え置いた

次期中期計画にて予定していた老朽建屋等の撤去を前倒しで検討

通期見通し
<下期の売上高・営業利益予想>


化学品	下期に入り原材料価格の高騰が顕著だが、売上の拡大によりカバーし、利益は当初予想と同等を見込む
ボトリング	コロナ禍からの回復の鈍化、エネルギーコストの高騰等により、当初予想よりも減収・減益予想
産業用部材	シリコンウェーハの拡販、ばね・座金製品の収益改善により増益を見込んだ 下期に入り原材料価格の高騰が顕著だが、販売価格への転嫁による吸収、売上の拡大によりカバーし、利益は当初予想と同等を見込む
エンジニアリングサービス	塗料販売・塗装工事および構造設計は好調を維持する計画 下期は、南澤建設の新規連結寄与はあるものの、建築・設備工事が依然低調を継続 塗料販売・塗装工事において新工場の稼働が順調に拡大、構造設計は好調継続の見込

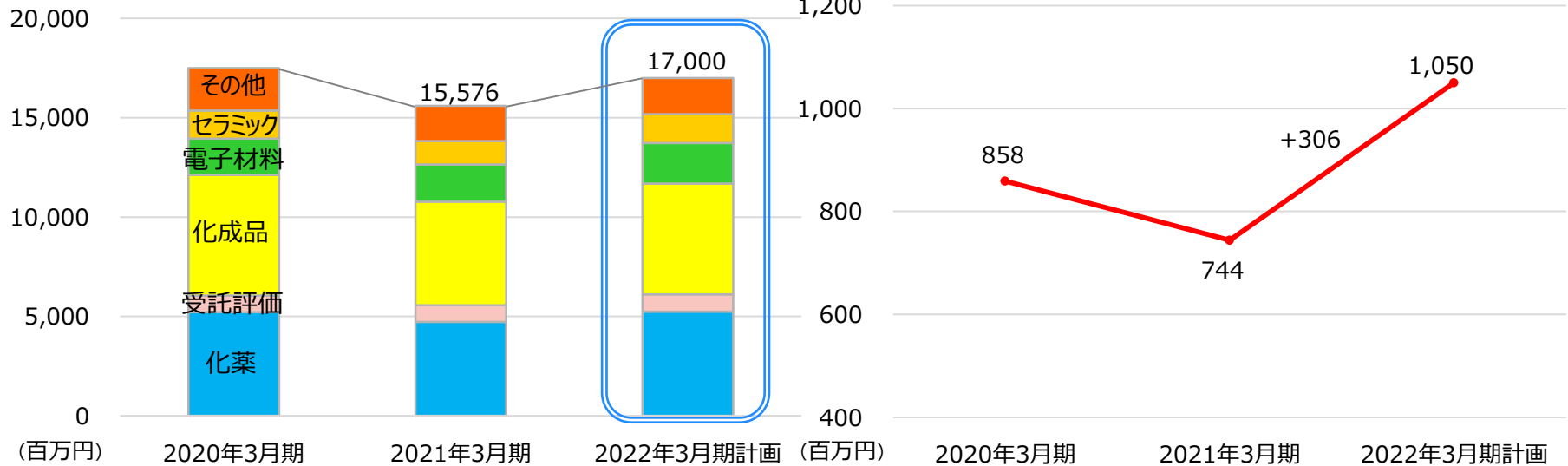
セグメント別

<化学品事業>

緊急保安炎筒（発炎筒）	新車向けは自動車減産の影響により減販、車検向けは回復 原材料価格の高騰により減益
煙火関連	需要低迷は続くが、前期よりは回復
受託評価試験	電池試験は好調 危険性評価試験の稼働回復、顧客の出張自粛に対応するリモート試験の更なる拡販を目指す
塩素酸ナトリウム（紙パルプ漂白剤）	国内の紙需要の漸増、輸出向け紙パルプの増加により回復
過塩素酸アンモニウム（ロケット固体推進薬）	ロケットの打ち上げ本数の減少により減販
電子材料関連	パソコン・通信機器の需要増加、5G関連への採用により増販
機能材料関連	オフィス複合機向けの需要漸増
セラミック材料	半導体向け需要増加により増販

【売上高（参考）】

【営業利益】

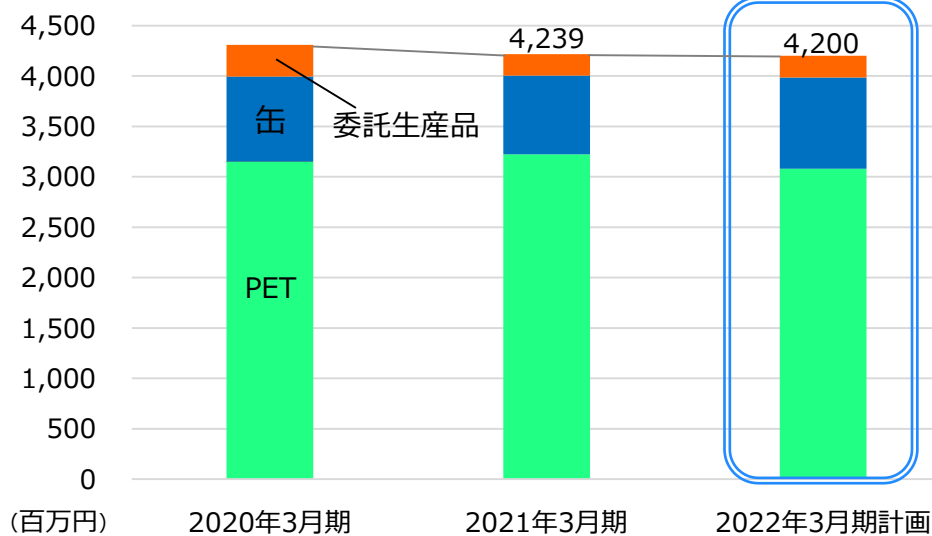


全体見通し

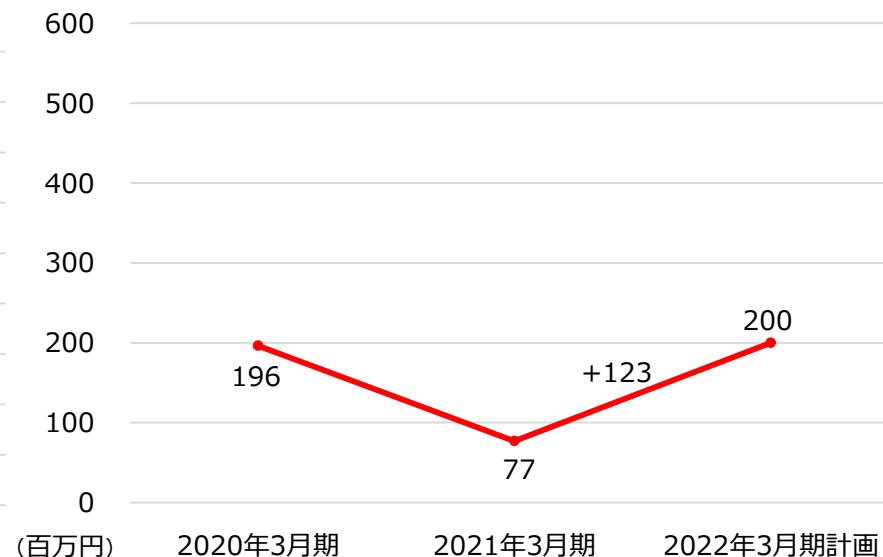
製造ライン不具合発生が発生した2020年3月期、コロナ影響の大きかった2021年3月期に比べ
緩やかに回復するものの、依然コロナ前には及ばず

下期からエネルギーコスト高騰の影響

【売上高（参考）】

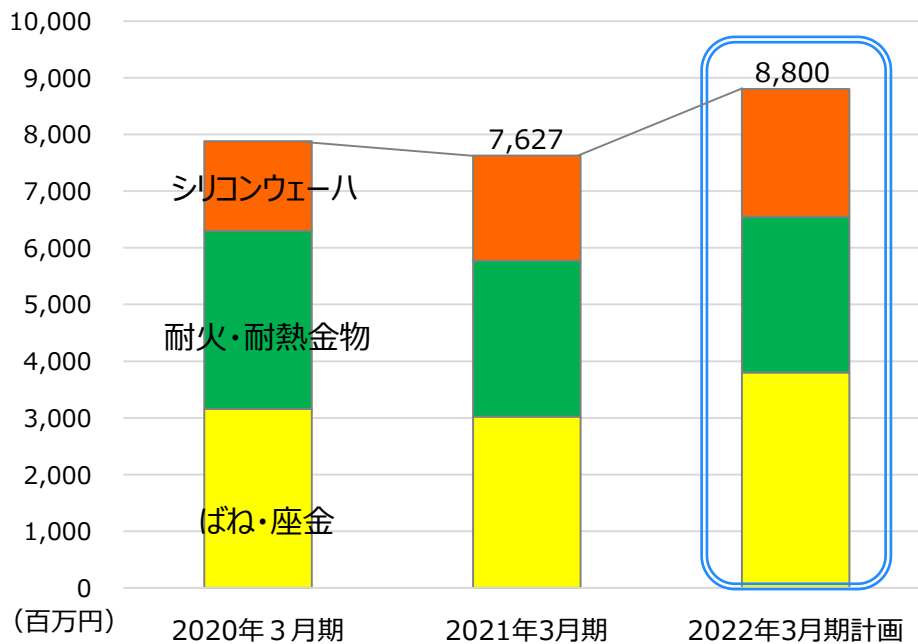
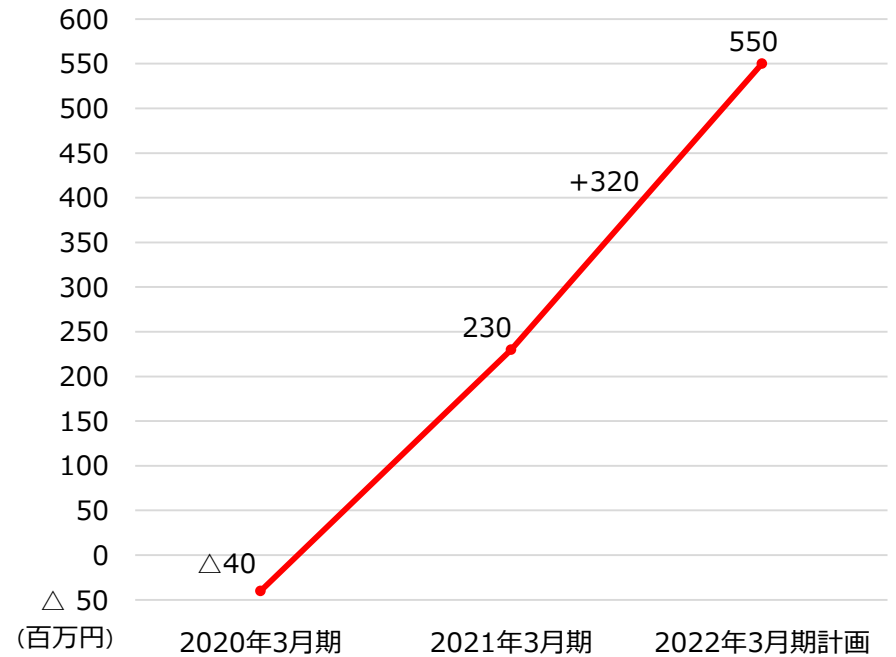


【営業利益】



セグメント別
<産業用部材事業>

半導体用シリコンウェーハ（シリコンテクノロジー）	半導体需要の好調継続により増収増益 MEMS（微小電気機械システム）向け超高平坦度ウェーハの販売開始 下期からエネルギーコスト高騰の影響
耐火・耐熱金物（並田機工）	耐熱炉内用金物（アンカー）が通期で好調、集塵機部品（リテーナ）が下期から回復
ばね・座金製品（東洋発條工業）	建機向けの好調継続により増収増益

【売上高（参考）】

【営業利益】


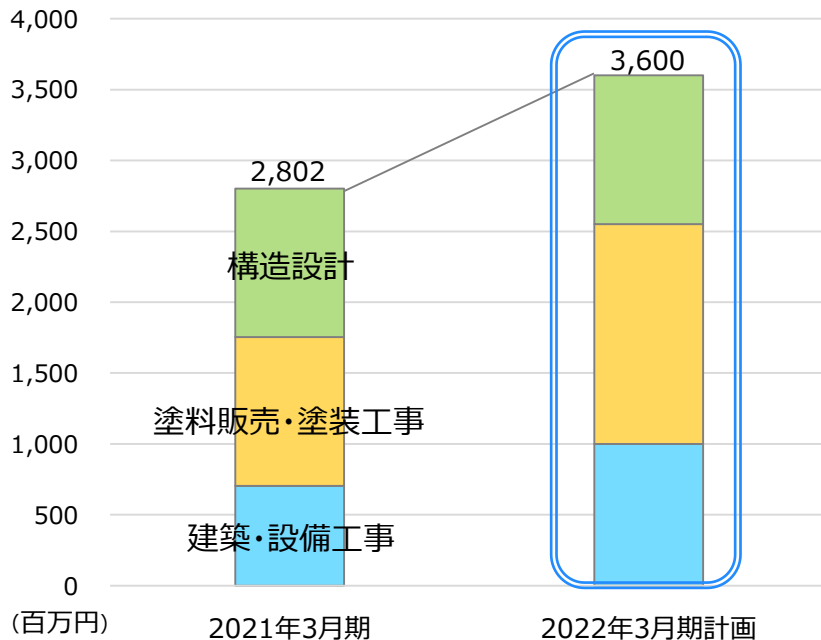
セグメント別

<エンジニアリングサービス事業>

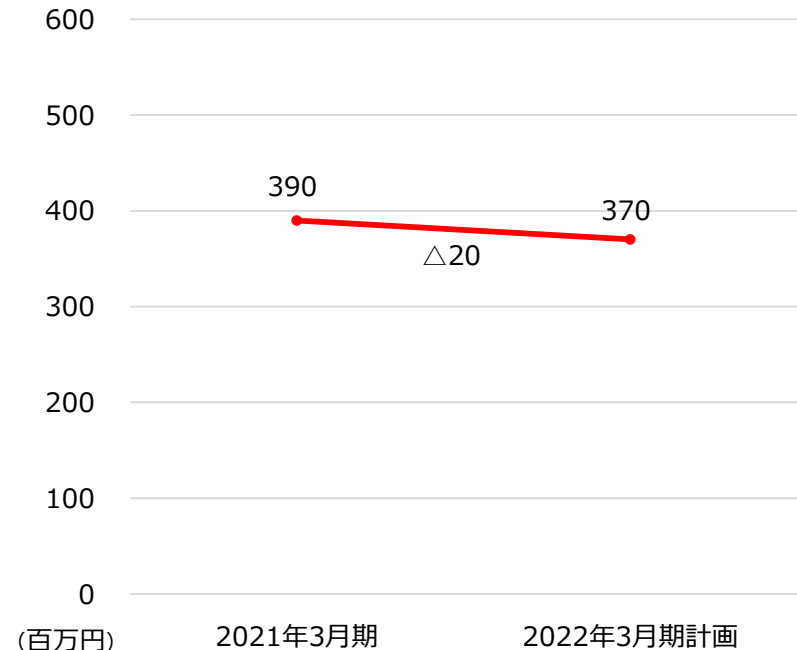
※2021年3月期新設

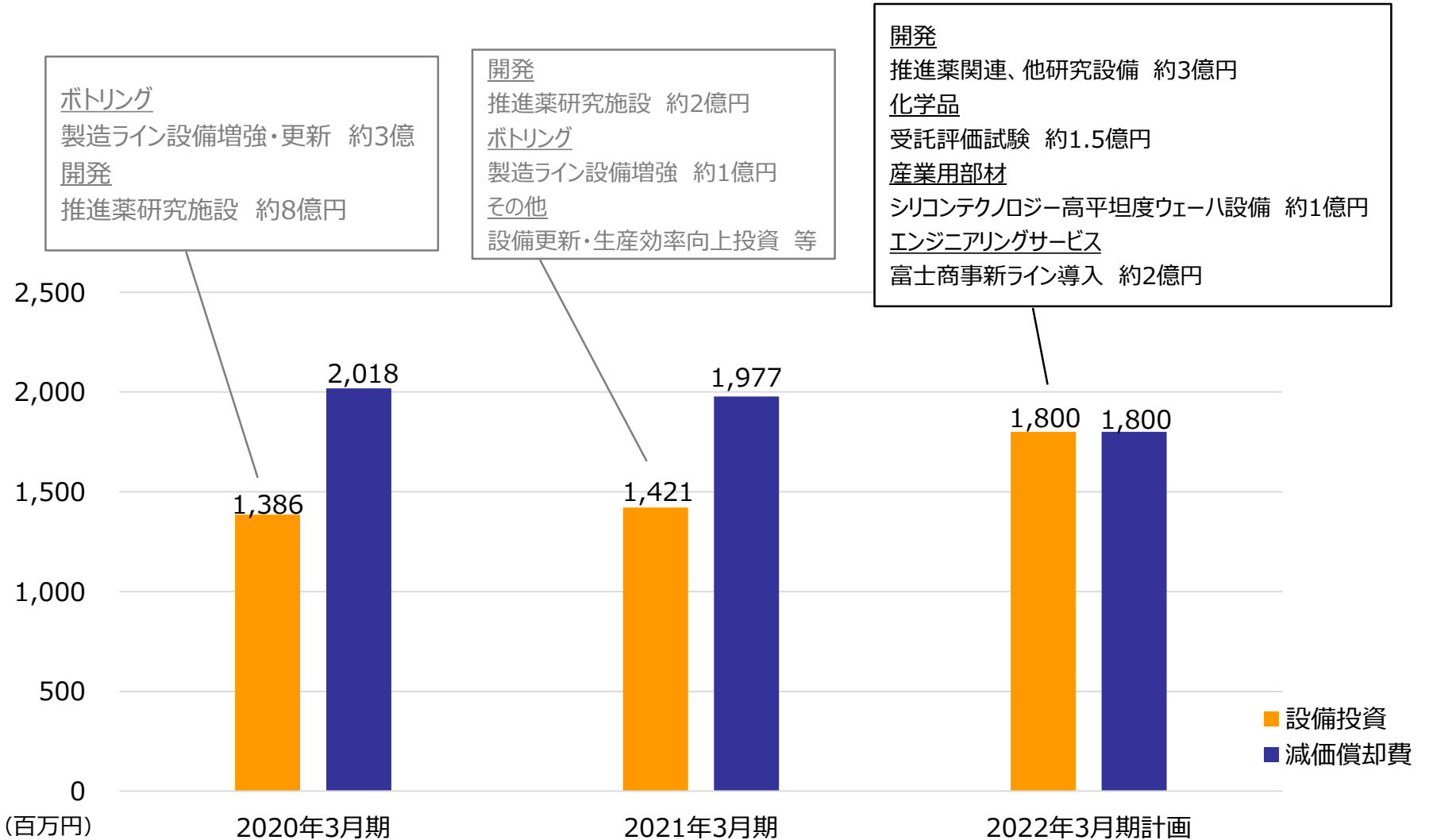
建築・設備工事（カーリット産業・南澤建設）	南澤建設の新規連結寄与による増収は見込むものの、カーリット産業の工事件数減少により減益
塗料販売・塗装工事（富士商事）	新規アイテムの獲得による好調継続
構造設計（総合設計・SDネットワーク）	収益性の高い物件の好調継続

【売上高（参考）】



【営業利益】





今後の取り組み

ESG

利益ある成長



持続可能な社会の実現

【サステナビリティ基本方針】

カーリットグループは、経営理念《信頼と限りなき挑戦》の下、モノづくりやサービスの提供を通じて社会課題の解決に貢献し、「持続可能な社会の実現」を目指します。

■ マテリアリティ

- S 安心・安全で生き活きとした職場環境づくり
- G 信頼性・透明性・収益性のある経営基盤の強化
- E 豊かな社会創造への貢献
- S 地域社会との共生



持続可能な社会へ

■ リスク管理体制の強化

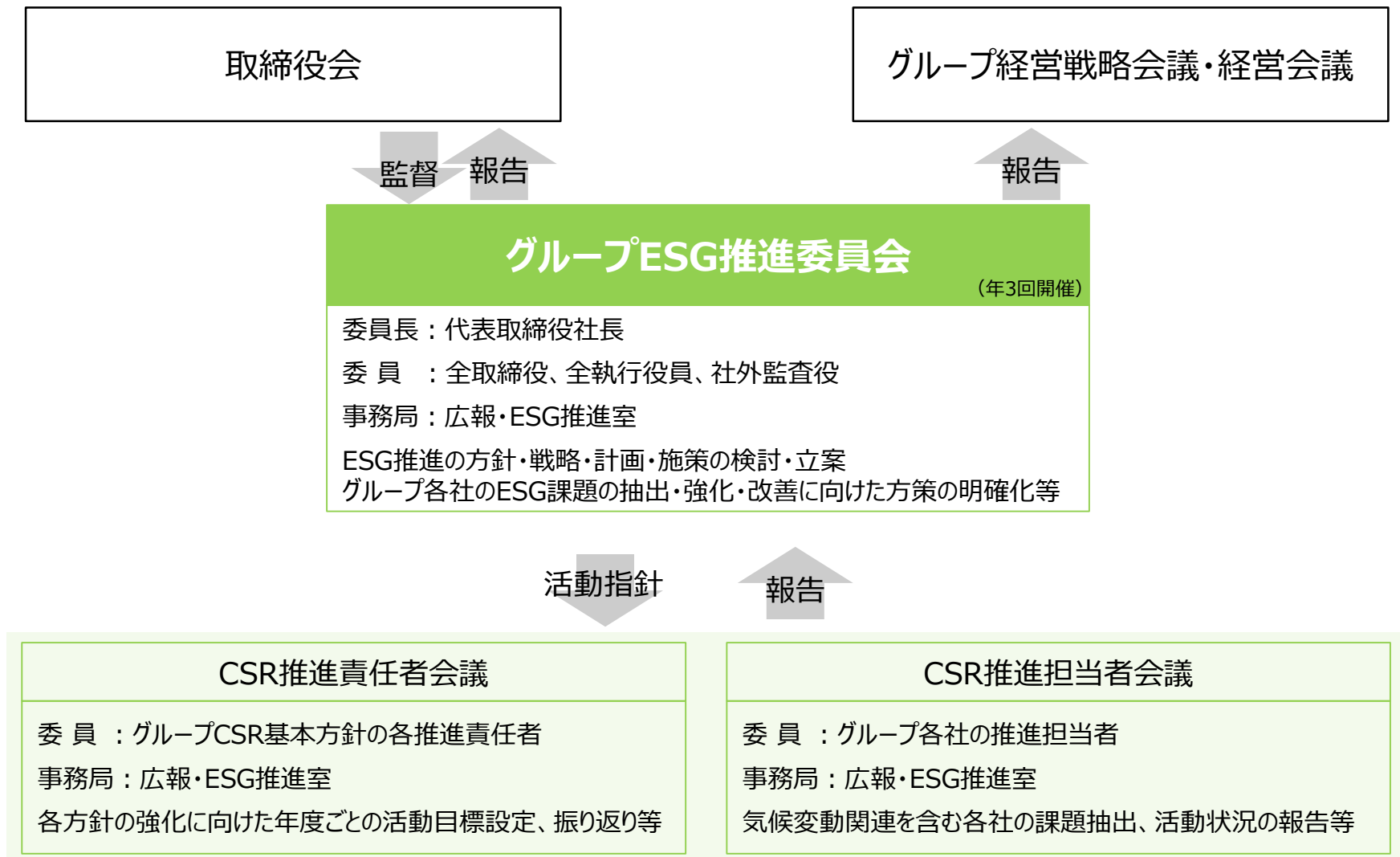
グループリスクマネジメント委員会、生産・品質統括部の新設

■ TCFD署名

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に賛同し、署名



ESG推進体制図



■ 新市場区分「プライム市場」を選択申請

2021年9月3日に開示

■ コーポレートガバナンス・コード改訂

主な対応事項

- 英文決算短信を開示
- 取締役の知識・経験・能力等を一覧化した、スキル・マトリックスを開示
- TCFDに則した気候変動による中長期的なリスク・機会の分析
- 女性管理職比率の目標値を設定

■ ウェブサイト「サステナビリティ」ページ開設

統合報告書「カーリットレポート2021」発行

- 価値創造のあゆみ
- ビジネスモデル
- 事業戦略
- 情報開示
- 若手社員と社長・取締役のESG座談会
- 人権・人財・職場環境
- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- 環境保全
- 安全対策・品質保証
- モノづくりを通じたサステナビリティ = 「ESGと利益ある成長」



コア技術を踏まえ、新たな事業展開・既存事業の周辺拡大を加速

日本カーリット

- ・長年培ってきた化成品、電子材料分野での強み
- ・開発・製造・販売の一体化が製品開発スピード加速のために不可欠
 - R&Dセンターを日本カーリットに移管
 - 開発部を新設
 - グループ会社からの新規案件にも対応

シリコンテクノロジー

- ・インゴット製造からスライス・研磨まで一貫生産体制の強み
- ・高成長が見込める半導体分野
 - MEMS向け超高平坦度ウェーハへの参入

ESG

利益ある成長

次期中期経営計画

持続可能な社会の実現

IRに関するお問合せ先：

カーリットホールディングス株式会社

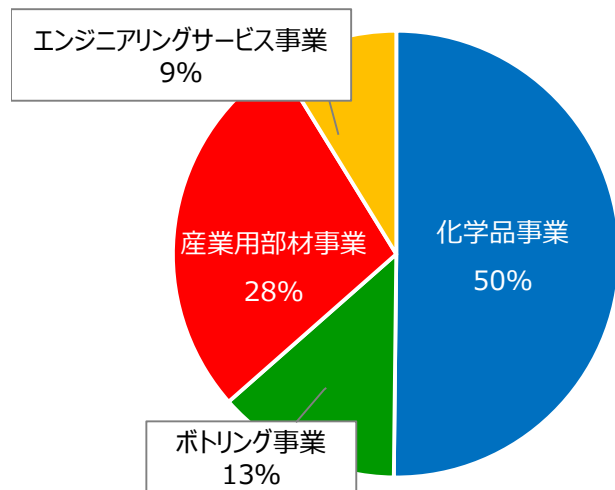
広報・ESG推進室

メール：pr@carlit.co.jp

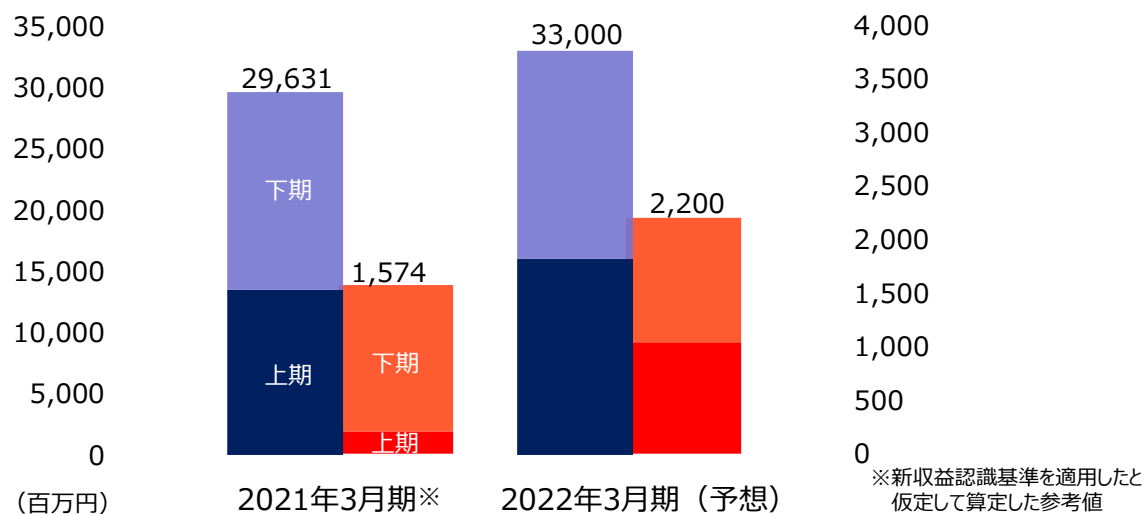
本資料は当社の事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は決算データ・会社データについては断りのない場合は2021年9月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された見通し等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

本 社	東京都中央区京橋一丁目17番10号	代表者	代表取締役社長 金子 洋文
創 業	1918年	設 立	2013年10月 1日
資本金	2,099,530,000円	従業員数	1,101名 (連結)
発行済株式数	24,050,000株 (1 単元100株)	単元株主数	24,093名

<2021年3月期第 2 四半期 売上高構成比>



<売上高・営業利益推移>



(単位：百万円)

	2021年 3月31日	2021年 9月30日	差 異		2021年 3月31日	2021年 9月30日	差 異
資産の部				負債の部			
現金及び預金	5,547	5,686	139	支払手形及び買掛金	5,310	5,650	340
受取手形及び売掛金	10,399	—	△10,399	有利子負債	7,896	7,104	△791
受取手形、売掛金 及び契約資産	—	8,996	8,996	その他負債	8,770	9,363	593
棚卸資産	3,949	4,384	435	負債合計	21,976	22,118	142
その他流動資産	849	2,444	1,594	純資産の部			
有形固定資産	19,874	19,805	△69	株主資本	24,597	25,318	721
無形固定資産	83	88	4	その他の包括利益 累計額等合計	4,379	4,788	408
投資その他の資産	10,248	10,819	570	純資産合計	28,977	30,106	1,129
資産合計	50,953	52,225	1,271	負債純資産合計	50,953	52,225	1,271

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,099	1,889
投資活動によるキャッシュ・フロー	△867	△687
財務活動によるキャッシュ・フロー	△944	△1,193
現金及び現金同等物の増減額	286	15
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,909	5,511